縁 えにし

寄り添い続ける

▶71◀

NPO法人ソーシャルハーツ（東京）

これまでのあゆみ

2013年2月　ソーシャルハーツが大槌町で生涯学習の活動を開始

15年春　数独教室を初めて実施

17年9月　数独の技能認定試験を初開催

17年11月　北上市で数独教室を開催

数独で生きがい創出

東京都のNPO法人ソーシャルハーツ（川上誠代表理事）は、東日本大震災後の2013年から大槌町の高齢者を対象に生涯学習の支援活動を展開している。川上代表理事(65)が隔週で教室を開き、同町での活動は150回を突破。数字パズル「数独」を活用した教室で、多くのお年寄りに笑顔を届けている。

7日は吉里吉里公民館と同町大ケロの災害公営住宅の集会所に高齢者約20人が集合。参加者は試験さながらの緊張感で机に向かった。

数独は縦横各3升、計9升に1～9の数字を重複せずに入れる数字パズル。レベル別に難易度が異なるのが特徴だ。

川上代表理事は高齢者の認知症を予防し、生きがいの場を創出しようと、13年2月に同町で活動を開始。当初はクイズや漢字学習などを行っていたが、活動が単発で終わってしまうため、15年春から参加者の習熟度が分かる数独教室に切り替えた。

毎回欠かさず参加している同町吉里吉里の芳賀アイさん(88)は「100点を取るのが楽しみ。自分の勉強の成果を発揮できるのが何よりの喜びだ」と声を弾ませる。

17年9月には、参加者に自信を深めてもらおうと同町で数独の認定試験を初めて開催。全国各地から愛好家が訪れ、交流人口の拡大にも一役買った。

現在は新聞やテレビの報道で評判になり、北上市などでも教室を開催。仮設住宅の集会所で産声を上げた小さな輪は広がり続けている。

熱心に数独に挑戦する大槌町の高齢者ら

被災地から　活動定着し笑顔戻る

大槌町吉里吉里
倉本　幹子さん(69)

川上代表理事が大槌町の吉里吉里地区で数独教室を開催する際のサポートをしている。震災で被災し、ふさぎ込むようになった高齢者が教室に参加して初めて笑ったというケースもあった。東京から毎月訪れるのは想像以上に大変だと思う。「川上先生に採点してほしい」と話す参加者も多く、活動が定着していることを実感している。

交流広め地域元気に

川上　誠さん
NPO法人ソーシャルハーツ

「全国に数独の輪を広げたい」と意気込む川上誠代表理事

大槌町で数独教室を続けている川上誠代表理事(65)に、活動に懸ける思いや今後の展望を聞いた。（聞き手は岩手支局・菅川将史）

―大槌町で数独教室を開催する意義は。

「災害公営住宅が次々に建設され、被災地を訪れるたびに街並みが変化している。ハード面では復興が進んでいることを実感するが、ソフト面の復興はこれから本格化すると思う。みんなで一堂に会して数独に取り組むことで交流の輪が広がる」

―活動で重視していることは。

「一人芝居で終わることがないよう、自分も楽しんで教室を開いている。数独は参加者同士のコミュニケーションを形成するためのツールの一つだ」

―約7年にわたり活動を続けている。

「当初はこんなに長く継続できるとは思っていなかった。毎回参加してくれるお年寄りやサポートしてくれる地域住民のおかげだ」

―今後の抱負は。

「高齢化による認知症の人の増加は大槌町や岩手県だけでなく、日本全体の問題だ。高齢者が生き生きと暮らせるために、全国に数独の輪を広げ、笑顔を増やしていきたい」

東日本大震災

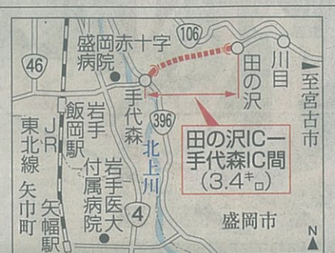
波力利用の水

大船渡・細浦地区

県、20年

医療、観光の効果期

盛岡　都南川目道路



東日本大震災の復興支援道路で、宮古盛岡横断道路を構成する盛岡市の都南川目道路（延長6キロ）は8日、全線開通した。田の沢―手代森間の3・4キロが同日開通し、簗川道路から盛岡市手代森の国道396号までの約13キロがつながった。

同市川目で
い、工事関係
者ら約110
増知事は「円
活動、広域周遊
産業振興に大き
揮される」と期
テープカットと
で開通を祝い、
り初めを行った
開通により、
矢巾町の岩手医
への所要時間は
となり4分短
か、盛岡赤十字
クセスも向上し
水産加工業・
古市）の鈴木良
度が命の水産

三陸復興支援へ カレンダー販売

20年版、盛岡の団体

盛岡市の復興
AVE IWA